

ピカソ泣く女

国内競売会社の最高額

10億円で落札

20世紀美術の巨匠、パブロ・ピカソ（1881〜1973年）の油彩「泣く女」（39年）が2日、東京都渋谷区で競売に掛けられ、10億円という異例の高値で落

札された。主催者は「国内を本拠地とする競売会社が行った競売では史上最高額」としている。今回出品された作品は、愛人だった写真家ドラ・マールをモデルとする連作の1点。縦55センチ、横38センチで、顔が大胆にデフォルメされ、頬を涙が伝う。落札者は明らかにされていない。

10億円で落札されたピカソの油彩「泣く女」
Picasso



Lot.103

Pablo Picasso (パブロ・ピカソ)

10億円で落札されたピカソの油彩「泣く女」2日午後、東京都渋谷区